

※下線部分は、令和 7 年度本格実施において、第 4 回試行実施の実施概要から追加・修正する内容

令和 7 年度（2025 年度）「全国学生調査（本格実施）」実施要領（案）

令和 7 年〇月〇日

「全国学生調査（本格実施）の実施方針」（令和 6 年 9 月 9 日、令和 7 年〇月〇日一部改訂）に基づいて、令和 7 年度の全国学生調査（本格実施）を以下のとおり実施することとする。

部分：全国学生調査（本格実施）の実施方針の記載内容

1. 基本方針

急速な少子化の進展等、高等教育を取り巻く環境が大きく変動する中において、各大学は社会が期待する役割や求める人材像を自ら把握し意識しながら、各自の強み・特色を生かした教育研究活動について積極的に発信することにより、規模や立地、知名度等による入学者選抜の選抜性の高低によらず、教育研究の質の高度化に向けた取組について国際社会を含む外部から適切な評価を得ていくことがこれまで以上に求められている。

このような状況を踏まえ、学修者本位の教育への転換を目指す取組の一環として、学修の主体である学生目線からの大学教育や学びの実態把握を通じて、以下①～④への活用を目的とする「全国学生調査」を実施する。

- ① 各大学が自大学の学生の実態や意識や他大学との比較分析を踏まえた教育改善に活用すること
- ② 大学進学希望者やその保護者あるいは地域社会、産業界、海外の留学関係者等から、各大学における学生の学修成果や大学全体の教育成果にこそ関心を持ってもらい、大学に対する理解を深めてもらうこと
- ③ 国が今後の政策立案に際しての基礎資料として活用すること
- ④ 学生一人一人が「何を学び、身に付けることができたのか」を振り返ることで今後の学修や大学生活をより充実したものにすることや、卒業後の社会における自らの姿を考える上での一つの契機とすること

2. 調査対象

参加意向のあった大学※（短期大学を含む。）の学部（短期大学は学科。）に在籍する、2 年生及び最終学年生（短期大学は最終学年生のみ。）

※通信教育課程に在籍する学生は対象外とする。

3. 調査実施時期

令和7年度以降、原則として毎年度実施する。

調査実施時期は、令和7年10月～令和8年3月（詳細日程は、後日、文部科学省が参加大学に連絡）とし、このうち、各大学において1か月程度の期間設定を推奨する。

ただし、後掲の「4. 調査方法」の調査方法②の調査実施時期は、各大学の判断で令和7年4月～令和8年3月に設定することができる。

4. 調査方法

参加大学が以下の調査方法①～②から選択

- ① 文部科学省が実施するインターネット（WEB）調査（文部科学省が指定するURLに学生が直接回答）
- ② 参加大学が実施する学生調査（大学独自の学生調査の中に本調査の質問項目を設定）

《留意点》

○調査方法②について

- ・各大学において、調査結果を取りまとめ、翌年度の概ね4月末まで（詳細日程は、後日、文部科学省が参加大学に連絡）にデータ等を提出する。
- ・データ等の提出にあたっては、個人を特定する情報を削除した上で、文部科学省が別途指定する様式にて提出する。

5. 質問項目

当面、原則として、第4回試行実施の質問項目（選択式33問程度、自由記述式1問）から変更しない。

質問項目は、選択式33問程度、自由記述式1問（別紙のとおり）とする。

《留意点》

○調査方法①について

- ・インターネット（WEB）調査にて、大学独自の質問項目を追加で設定できるよう文部科学省において準備する。ただし、今後の委託業者との調整により変更がありうる。

○調査方法②について

- ・調査結果の比較分析ができるよう、各大学の学生調査では、本調査の質問項目は変更せず同じ文言に設定する。同じ文言ではない各大学の質問項目を本調査の質問項目として読み替えること、本調査の質問項目の要素を分離して各大学の学生調査を実施すること、本調査の質問項目の選択肢数（４件法）を変更することは、原則として不可とする。ただし、軽微な読み替え及び選択肢数の変更については、文部科学省に個別相談を行い、認められたものは全国学生調査の回答として扱うことができる（P）。
- ・各大学の学生調査における自由記述式の回答を全国学生調査の選択式に置き換えることはできない。
- ・各参加大学は、大学独自の質問項目を、本調査の質問項目に加えて、別に設定することができる（当該回答データ等の提出は不要）。その際、質問項目の順序変更を可とする。

6. 調査結果の取扱い

（１）文部科学省

調査結果として、各質問項目において肯定的な回答割合が高かった大学・短期大学の学部（学科）ごとに上位順に一覧化したもの（ポジティブリスト）※に加えて、結果公表の同意が得られた大学の回答全体の集計結果※を、文部科学省ホームページで公表する。

※原則として、本実施方針と別に示す集計基準に合致した参加大学の学部（学科）を公表する。

また、参加大学に対して、当該大学に在籍する学生の回答を一覧化したものや当該大学の調査結果の分析の際に活用できる資料を調査結果として提供する。

上記のほか、回答全体の集計結果として、参加大学名、有効回答者数、有効回答率のほか、各質問項目の選択肢ごとの回答割合等を公表する（自由記述を除く。）。さらに、設置者別、学部規模別、学部分野別、学年別、設置者別と学部規模別の回答状況の組み合わせ、学部分野別と学部規模別の回答状況の組み合わせなど、調査結果の活用に資する形での集計を行い、公表する。

集計に当たっては、全ての調査項目（自由記述を除く。）に回答したものを「有効回答」として集計する。なお、分析及び公表に当たってはデータの代表性を確保する観点から、以下の集計基準に合致した学部（学科）の回答のみを対象にする。

【集計基準】

対象学部（学科）の学生数が、

- 「 60 人以上 80 人未満のとき、有効回答者数 30 人以上」
- 「 80 人以上 200 人未満のとき、有効回答者数 40 人以上」
- 「 200 人以上 600 人未満のとき、有効回答者数 50 人以上」
- 「 600 人以上 のとき、有効回答者数 60 人以上」
- 又は「 60 人未満 のとき、有効回答率 50 %以上」

《留意点》

○ポジティブリストについて

- ・ 問 1～4 の各質問項目において、原則として、上記の集計基準に合致した参加大学の学部（学科）を分野別（一定数の母集団が得られることが前提）に一覧化するとともに、これらの大学・短期大学の教育方法・教育改善の取組事例を公表することを予定しているが、詳細な取扱いは、全体の回答状況を踏まえ、有識者会議において検討を行い、文部科学省において決定する。

○個別回答の公表に係る同意手続きについて

- ・ 結果公表の同意の確認は、本調査への参加意向等確認調査時に、大学単位で行う(P)。
- ・ ポジティブリストに掲載される参加大学に対して結果公表の同意手続きは特段行わない。

（２）参加大学

自大学の調査結果について積極的に発信するとともに、全国共通の質問項目により、学生目線から大学教育や学びの実態を他大学と比較分析できるという本調査の特長を生かし、IR や FD・SD 活動、自己点検・評価における活用や、他大学等との情報共有等に活用することにより、国公立の各参加大学が学生の意見も踏まえた教育改善を促進させるよう努めるものとする。

7. その他

- ・ 本実施方針の内容は、第 4 回試行実施の実施状況を踏まえて変更する場合がある。
- ・ 調査方法や質問項目等の変更を行う場合は、十分な時間的余裕をもって予告する。

令和7年度（2025年度）「全国学生調査（本格実施）」質問項目

（選択式33問・自由記述式1問）

文部科学省では、学生の皆さん一人一人の学びの実態を把握し、大学教育を改善していくための「全国学生調査」を実施します。（この調査では短期大学も「大学」と表記します。）

いただいた回答は、匿名により個人が特定されない形で所属大学へ提供し、各大学の教育改善に活用していただきます。（本人以外はどなたが回答したか分かりません。）

この機会に、皆さんの声をぜひ聞かせてください。

（所要時間：約10分）

※2年生の方については、5-2は表示されませんが、回答不要の設問ですので誤りではありません。

0-1 あなたが在籍する学部（学科）を選択してください。

0-2 学部（学科）の分野を選択してください。（自動表示）

0-3 あなたの学年を選択してください。

問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

（選択肢：1:なかった、2:あまりなかった、3:ある程度あった、4:よくあった）

1-1 理解がしやすいように教え方が工夫されていた。

1-2 予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される。

1-3 課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。

1-4 グループワークやディスカッションの機会がある。

1-5 質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。

1-6 ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。

問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。経験していない場合は1を選択してください。

（選択肢：1:経験していない、2:有用ではなかった、3:あまり有用ではなかった、4:ある程度有用だった、5:有用だった）

2-1 インターンシップ（5日間以上）

2-2 海外留学・海外研修（短期も含む）

2-3 主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）

問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。

(選択肢： 1:身に付いていない、2:あまり身に付いていない、3:ある程度身に付いた、4:身に付いた)

3-1 専門分野に関する知識・理解

3-2 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観

3-3 文献・資料を収集・分析する力

3-4 論理的に文章を書く力

3-5 人に分かりやすく話す力

3-6 外国語を使う力

3-7 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能

3-8 問題を見つけて解決方法を考える力

3-9 他者と協働する力

3-10 幅広い知識、ものの見方

3-11 異なる文化に関する知識・理解

問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

(選択肢： 1:そうは思わない、2:あまりそうは思わない、3:ある程度そう思う、4:そう思う)

4-1 卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。

4-2 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。

4-3 教職員が熱心に教育に取り組んでいる。

4-4 大学の学びによって成長を実感している。

問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間(7日間)の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

(選択肢： 1:0時間、2:1-5時間、3:6-10時間、4:11-15時間、5:16-20時間、6:21-30時間、7:31時間以上)

5-1 授業への出席

(実験・実習、オンライン授業を含む)

5-2 卒業論文・卒業研究・卒業制作 (0-3で2年生を選択すると非表示)

5-3 予習・復習・課題など授業に関する学習

(卒業論文等は除く)

5-4 授業と直接関係しない自主的な学習

(学問に関する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等)

5-5 部活動／サークル活動

5-6 アルバイト／定職

問6 本調査や、大学での学びについて意見がありましたら教えてください。（自由記述）

【調査方法①のみ】

※匿名調査のため、自分自身や他人の個人情報を入力しないでください。

質問は以上です。御協力ありがとうございました。いただいた回答の集計結果は、[文部科学省ウェブサイト](#)で公表（令和8年春～秋頃予定）しますので、ぜひ御覧ください。

（大学や社会に対して、個人が特定される形であなたの回答内容が公表されることはありませんので、御安心ください。）